



令和3年度 サッカーキャンプ 誘致戦略推進事業

実施報告書

概要版

沖縄県

令和3年度 サッカーキャンプ 誘致戦略推進事業
実施報告書

目次

1. 概要
2. 決定状況
3. キャンプ地の情報発信について
4. サッカーキャンプ誘致における経済効果算出について
5. 総括

1. 概要

沖縄県におけるサッカーキャンプ誘致事業は本年度で12年目を迎えた。その間、各自治体・宿泊施設および関係団体との連動した受け入れ体制の構築、更には各グラウンドの芝の良質化を目的とした「芝人養成事業」、キャンプ受け入れグラウンド(市町村)を拡大しキャンプ実施クラブの増加を目的とした「受入市町村促進事業」の効果もあり、年々誘致チーム数は順調に伸び、一定の成果を出すことが出来た。

また近年は来場促進を目的とした「サッカーキャンプガイドブック」の発行や公式ホームページにおける多言語化対応など、情報発信にも力を入れることによりサッカーキャンプを通じて沖縄ブランドの新たな価値向上を図ってきた。

しかしながら世界中で爆発的な感染拡大を見せた新型コロナウイルスの影響により、昨年度は海外クラブの実施が0になるなど誘致数が減少。

今年度は誘致クラブ数の増加(令和2年度実績である26クラブ以上の誘致実現)、情報発信の強化による沖縄県内への更なる観光客の増加(誘客)を目的とし事業を開始したが、年が明けての沖縄県内における「まん延防止重点措置」の適用を受け、直前で4クラブがキャンセル。

またこれまでキャンプ受け入れを実施してきた2施設がグラウンドの改修工事やクラブハウス建設工事等を行ったことから、今年度は受け入れ不可となったこともあり、近年では最も少ない17クラブの実施となった。

事業開始当初は、誘致するクラブに関しては各市町村の意向も踏まえ、これまで例年沖縄でキャンプ実施をしているクラブから優先的にスケジュールを確認し、新規クラブの誘致を目指した。

なお効率的、効果的なアプローチを図るべく、誘致活動を行うにあたり次のような優先順位を設けた。

1) 前年度（令和元年度）実施クラブ（国内）の確定

21クラブ（Jクラブ20、なでしこ1）の継続実施の確定

【国内クラブ】 21クラブ（J20クラブ+なでしこ1クラブ）		
FC東京	J1	12年目
サガン鳥栖	J1	12年目
ガンバ大阪	J1	9年目
ヴィッセル神戸	J1	8年目
川崎フロンターレ	J1	8年目
北海道コンサドーレ札幌	J1	8年目
浦和レッズ	J1	7年目
名古屋グランパス	J1	7年目
横浜・F・マリノス	J1	5年目
湘南ベルマーレ	J1	2年目
ジェフユナイテッド市原・千葉	J2	12年目
水戸ホーリーホック	J2	8年目
大宮アルディージャ	J2	7年目
京都サンガF.C.	J2	5年目
V・ファーレン長崎	J2	5年目
ファジアーノ岡山	J2	4年目
FC町田ゼルビア	J2	4年目
ギラヴァンツ北九州	J2	3年目
ザスパクサツ群馬	J2	2年目
ヴァンラーレ八戸	J3	5年目
伊賀FCくノ一三重	なでしこ	3年目

2) その他Jクラブ

過去に沖縄キャンプを実施しながら、現在は行っていないJクラブ（前年度、コロナの影響により沖縄キャンプを見送ったクラブ含む）に対してアプローチ。再誘致を目指す。キャンプ実施にあたって地元の子供達へのサッカー教室はもちろん、たくさんのメディアやサッカーファンなどに注目していただくよう海外クラブとのトレーニングマッチも実現出来るよう誘致交渉の段階でクラブ側にリクエストを出していく。

【国内クラブ】 具体的な誘致ターゲットクラブ（一部）		
ベガルタ仙台	J1	2年ぶり5回目
東京ヴェルディ	J2	2年ぶり7回目
松本山雅FC	J2	新規実施
ジュビロ磐田	J2	新規実施

3) 海外クラブ

経済効果への寄与を見据え、希望宿泊期間の長いクラブなどをターゲットにする。また既存の中国や韓国クラブだけではなく、2022年がワールドカップイヤーという点も踏まえ、代表選手が在籍しているクラブなど、キャンプ地への観光誘客も視野に入れた誘致活動を展開する。

4) なでしこ（女子）クラブ

これまで実施したなでしこのクラブを中心に誘致活動を実施し、地元沖縄の女子クラブとのトレーニングマッチの実現を目指す。

5) 大学チーム

関東及び関西の大学を中心に誘致。地元の大学チームも加えたカップ戦を開催。1～2月期のトッププロチームの実施が終わった3月ごろに開催することで、グラウンドの確保に伴う大会の実施、宿泊施設への経済効果の寄与へも貢献できるよう努める。

以上の点を踏まえ今回の誘致活動を取り組むにあたり、県内の受け入れ市町村や宿泊施設に加え、沖縄県サッカー協会や沖縄県スポーツ協会、海外クラブの窓口となる各仲介人（エージェント）等と情報共有を行いながら誘致活動を開始した。

しかしながら結果は前年度（令和元年度）を下回る17クラブの誘致に止まった。

主に1)新型コロナウイルス関連肺炎の影響が大きく海外クラブの誘致が出来なかったこと。2)前述の通り受け入れ可能施設が減少したこと。3)キャンプシーズン直前になり沖縄県内において「まん延防止重点措置」が適用され、実施を見送ったチームが出てきたことが挙げられる。

さらに昨年度に続き全クラブ・全日程を無観客で実施し、キャンプを楽しみにしている県内外の方々にとってもトレーニングが見学できず寂しいキャンプシーズンとなった。

事務局の実務作業においても新型コロナウイルスの影響は大きく、医療体制の受け入れ整備はもちろん、実際にキャンプを実施したクラブの選手・スタッフから陽性者が多数発生し、予定されていたトレーニングマッチ（練習試合）が中止になるなど対応に追われた。

また上記の「まん延防止重点措置」の適用を受け、来場促進に繋げる目的で製作した「サッカーキャンプガイドブック」の配布自粛やホームページでの情報発信も自粛するなどの対応を行なった。

2. 決定状況

令和3年度 沖縄サッカーキャンプ 実施一覧

1. 北海道コンサドーレ札幌 (J1)

期間：1月15日～2月5日 (22日間)

場所：金武町陸上競技場

宿泊：リザンシーパークホテル谷茶ベイ (恩納村)

2. 浦和レッズ (J1)

期間：1月17日～2月5日 (20日間)

場所：金武町フットボールセンター

宿泊：ASBO STAY ホテル (金武町)

3. FC東京 (J1)

期間：1月17日～1月26日 (1次キャンプ：10日間)

場所：かいぎんフィールド国頭

宿泊：オクマプライベートビーチ&リゾート (国頭村)

期間：1月27日～2月5日 (2次キャンプ：10日間)

場所：糸満市西崎陸上競技場

宿泊：ロワジールホテル那覇 (那覇市)

4. 川崎フロンターレ (J1)

期間：1月24日～1月30日 (1次キャンプ：7日間)

場所：恩納村赤間運動公園サッカー場

宿泊：シェラトン沖縄サンマリーナリゾート (恩納村)

期間：1月31日～2月5日 (2次キャンプ：6日間)

場所：中城村吉の浦公園ごさまる陸上競技場

宿泊：EM ウェルネス暮らしの発酵ライフスタイルリゾート (北中城村)

5. 名古屋グランパス (J1)

期間：1月24日～2月9日 (17日間)

場所：南風原町黄金森公園陸上競技場

宿泊：サザンビーチホテル&リゾート沖縄 (糸満市)

6. 京都サンガF.C. (J1)

期間：1月17日～1月30日 (13日間)

場所：八重瀬町東風平運動公園サッカー場

宿泊：ホテルグランビュウガーデン沖縄 (豊見城市)

7. ガンバ大阪 (J1)

期間：1月18日～1月29日 (12日間)

場所：中城村吉の浦公園ごさまる陸上競技場

宿泊：EM ウェルネス暮らしの発酵ライフスタイルリゾート (北中城村)

8. サガン鳥栖 (J1)

期間：1月17日～2月5日 (20日間)

場所：ZANPA プレミアム残波岬ボールパーク

宿泊：ロイヤルホテル沖縄残波岬 (読谷村)

9. ベガルタ仙台 (J2)

期間：1月10日～1月23日 (13日間)

場所：糸満市西崎陸上競技場

宿泊：サザンビーチホテル&リゾート沖縄 (糸満市)

10. 水戸ホーリーホック (J2)

期間：1月27日～2月6日 (11日間)

場所：豊見城総合運動公園陸上競技場

宿泊：メルキュールホテル沖縄那覇 (那覇市)

11. ザスパクサツ群馬 (J2)

期間：1月31日～2月6日 (7日間)

場所：恩納村赤間運動公園サッカー場

宿泊：沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ (恩納村)

12. 大宮アルディージャ (J2)

期間：1月26日～2月5日 (11日間)

場所：西原町民陸上競技場

宿泊：オキナワグランメールリゾート (沖縄市)

13. FC町田ゼルビア (J2)

期間：1月17日～1月24日 (8日間)

場所：豊見城総合運動公園陸上競技場

宿泊：メルキュールホテル沖縄那覇 (那覇市)

14. ジェフユナイテッド市原・千葉 (J2)

期間：1月24日～2月4日 (12日間)

場所：南城市陸上競技場

宿泊：ユインチホテル南城 (南城市)

15. V・ファーレン長崎 (J2)

期間：1月17日～1月28日 (12日間)

場所：読谷村陸上競技場

宿泊：ホテル日航アリビラ ヨミタンリゾート沖縄 (読谷村)

16. 三菱重工浦和レッズレディース (WEリーグ)

期間：2月15日～2月19日 (5日間)

場所：金武町フットボールセンター

宿泊：ASBO STAY ホテル (金武町)

17. 大阪体育大学（関西学生リーグ）

期間：3月7日～3月11日（5日間）

場所：金武町フットボールセンター

宿泊：オキナワ マリオットリゾート&スパ（名護市）

3. キャンプ地の情報発信について

□ サッカーキャンプ ガイドブックの作成

今年度も県内への誘客を目的とした「沖縄サッカーキャンプガイドブック 2022」を制作した。事前に各自治体の観光情報を取りまとめ、実施クラブ側にも協力いただき制作・納品まで至ったが、沖縄県により発出された緊急事態宣言の影響により、新型肺炎対策の為、これまで配布を実施していたモノレール各駅、レンタカー協会加盟店舗、各コンビニエンスストアへの配布は自粛する形となった。

＝サッカーキャンプガイドブック＝

発行部数 50,000 部



□ 市町村情報発信番組の制作

今年度は新たな取り組みとして自治体から希望のあった情報番組の制作を行なった。キャンプ期間中に実施クラブにも協力いただき市町村の情報番組を制作。コロナウィルスの影響により有観客の実施が不透明な中、県外で放映することによって次年度以降へのサポーター誘客を目的として製作した。30分番組1本につき2自治体を紹介。これを3本（6自治体分）製作。映像素材は各自治に2次使用の権利を与え、番組放映後はそれぞれのSNSなど発信媒体でも活用してもらう



4. サッカーキャンプ誘致における経済効果算出について

令和3年度サッカーキャンプの経済波及効果（速報値）

（沖縄サッカーキャンプ 2022）

経済効果はサッカーキャンプ誘致事業によるキャンプ関連支出とキャンプ見学観光客による2つの区分を設定したが、今年度事業は新型コロナ対策により、観光客はゼロ計上となった。選手及びスタッフは17チーム895人となり、平均宿泊日数は13.3日となった。

チーム誘致関連経費		観光客による需要増加額	
	支出額(円)		支出額(円)
球団経費	262,116,132	宿泊費	0
その他消費	13,753,416	交通費	0
施設関連経費	5,538,990	土産・買物費	0
選手・スタッフ 個人々による 消費	47,556,862	飲食費	0
合計	328,965,400	娯楽・入場費	0
		その他	0
			0

直接効果はサッカーチーム誘致に伴う宿泊費及び運営費、受入自治体事業費、施設整備等球場関連支出が約3億2,896万円、キャンプを見学を訪れた観光客による支出はゼロ円となるため、合わせて約3億2,896万円が直接効果となった。

以上の直接効果により、経済波及効果は以下の通りとなった。

単位：円

	キャンプ効果	観光効果	効果の合計:A	2020年の効果:B	A/B
直接効果	328,965,400	0	328,965,400	1,908,177,245	17.2
付加価値額	160,276,226	0	160,276,226	1,004,928,320	15.9
雇用者所得	75,664,261	0	75,664,261	546,360,055	13.8
域内需要増加額	110,243,228	0	110,243,228	588,288,755	18.7
1次効果	148,383,463	0	148,383,463	790,697,920	18.8
2次効果	106,738,909	0	106,738,909	657,647,727	16.2
総効果	584,087,772	0	584,087,772	3,556,522,892	16.4

2022年のサッカーキャンプによる経済効果は約5億8,408.7万円、観光客による経済波及効果はゼロである。前々年度の2020年の効果に対して直接効果は17.2%、総効果は16.4%と2割を割り込む大きな落ち込みとなったものの、今回のコロナ禍において宿泊施設等にとっては一定程度の効果をもたらす結果となっている。

以上

*最後の有観客開催となった令和元年度のデータを比較対象としている。

5. 総括

令和3年度におけるサッカーキャンプは「2. 誘致活動」のところで触れたように昨年度からの受け入れ施設減の課題を抱えながらのスタートとなった。中には希望する日程の変更を事務局から依頼し、対応していただいたクラブもあった。

昨年度の反省課題でもあった関係団体による医療体制を含めた受け入れ体制の構築についても事前に医療機関と連携を図り、検査体制を整えるなど準備を進めていたがキャンプ直前になり県内での感染者が爆発的に増えたことは想定外であった。

最終的には20人ほどの陽性者がキャンプ実施クラブから発生し、医療部分についても十分な対応が出来たとは言い難い結果となった。

沖縄県内における「まん延防止重点措置」の適用により、これまでキャンプを実施していたヴィッセル神戸、ファジアーノ岡山、ヴァンラーレ八戸、そして8年ぶりに春季キャンプ実施を予定していたセレッソ大阪の4クラブが直前で実施を見送った。クラブ内はもちろん地元の支援者から「こんな状況の沖縄に無理して行く必要があるのか」との声を受けたと聞いており、今後の実施についても、より万全で安心な環境の提供が求められることを痛感した。

加えて昨年度まで石垣島で実施していた横浜F・マリノスが実施を見送り、大田クラブの誘致にも動いたが、やはり離島で練習試合がなかなか出来ないという環境面の問題もあり、石垣での実施クラブは今年度0となった。

最終的には実施調整が出来ていたのは22クラブ（上記のJリーグ4クラブ及び慶應義塾大学含む）だったが新型コロナウイルスの影響もあり17クラブでの実施となった。

「サッカーキャンプ誘致戦略推進事業」が「誘致から誘客」へと大きな転換期を迎えてきている中、観光促進とクラブの充実したキャンプ実施の両方に加え、安心・安全な受け入れ環境を追い求めながら「沖縄サッカーキャンプ」を今後さらに拡大・発展させるためには、より関係者の方々の協力・連携、そしてそれぞれの立場における理解が必要になってくる。

今年度もキャンプの受け入れに尽力していただいた関係者の皆さま、そして沖縄サッカーキャンプの円滑な実施の為に協力していただいた各クラブの皆さまに感謝したい。

令和3年度 サッカーキャンプ誘致戦略推進事業
実施報告書
(概要版)

発注者：沖縄県文化観光スポーツ部 スポーツ振興課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

受託業者：サッカーキャンプ誘致戦略推進事業共同企業体

代表法人：沖縄S V株式会社
〒901-0225 沖縄県豊見城市豊崎 3-59 トヨプラ 311 号

株式会社アドスタッフ博報堂
〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 3-17-5 美栄橋ビル



 株式会社 アドスタッフ博報堂

令和3年3月発行

